

中津ロータリークラブ週報

2020-2021年度 中津RC会長スローガン

『ロータリーをつなぐ』“今は耐える・そして備える”


ロータリーは機会の扉を開く
ホルガー・クナーク
2020-2021 RI会長テーマ

第3266回 2021年4月28日 点鐘:12:30

本日の出席者	会 員 数	51名	欠席者 (5名)	事前： 細川会員、伊藤会員、柿内会員、松下会員、大東会員
	出席対象者数	51名		
	出 席 数	46名		
	出 席 率	90.20%		
3263回の修正	出 席 率	86.27%	メークアップ	伊藤会員（東龍IAC）、峯中会員（Eクラブ）、土岡会員、重本会員、恒廣会員（地区大会）
	メークアップ	5名	アップ	
	修 正 率	90.20%	欠席者	柿内会員、黒田会員、三重野会員、大東会員、時松会員
来 訪 者	奥塚中津市長、硯川ガバナー夫妻、瀧パストガバナー夫妻、中津中央RC会長・幹事、中津平成RC会長・幹事			今週の歌 四つのテスト

●会長の時間〔末永会長〕

本来であれば本日は、このたび移転落成した新向笠記念公園で御来賓及び会員の皆様と記念例会を開催する予定でしたが、あいにくの天候の為、急遽会場を変更いたしました。それにもかかわらず、多くの皆様にご出席して頂き、誠に有難うございます。先ずは移転先に素晴らしい場所を提供頂きました奥塚中津市長様をはじめ行政関係者、地元関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。また、向笠記念公園移転に関し、数年にわたりご尽力頂きました出利葉特別委員長をはじめ、関係された全ての会員の皆様へ重ねて感謝申し上げます。

向笠記念公園は今から36年前の1985年に、全国のロータリアンよりいただいた総額¥29,679,888のご寄付を元に向笠廣次元国際ロータリー（RI）会長の顕彰事業として完成しました。

先日、みやこ町豊津にある峯高寺の向笠元RI会長の墓前へ山本幹事とともに記念公園移転の報告をさせて頂きました。当日は晴天に恵まれ、92歳になられるご住職自らご案内頂き、向笠元RI会長に関して色々とお話を伺う事が出来ました。また、中津RC会員が墓参に來た事がよほどうれしかったのか、本堂までご案内頂き、接待を受けました。皆さんも近くに行かれた際は、是非一度立ち寄られてみてはいかがでしょうか？

向笠元RI会長の生い立ち、ご功績等、詳細に関しては、この後の卓話で川島眞人会員に詳しくお話頂きますので、関連して感じたこと少しお話をさせて頂きます。

先日、「おしん」や「渡る世間は鬼ばかり」で有名な作家の橋田寿賀子さんがお亡くなりになりました。「おしん」はちょうど向笠廣次氏がRI会長を務められていた1983年の4月から翌1984年の3月まで放送され、最高視聴率62.9%を記録したNHKの連続テレビ小説31作で、世界64か国で放送され、いまなお、とくに途上国で絶大な人気があるそうです。「おしん」はまさに国際親

善大使であると言われましたが、時を同じくして向笠廣次氏が世界中のロータリークラブ会員のトップとして活躍されました。向笠氏は「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう」のスローガンを掲げ、ダラスの国際協議会の壇上で「人類はその祖先をたどっていくと皆が血縁の関係にある。人類はひとつなのです。さあ皆さん、隣にいるオジサンやイトコと初対面の挨拶をしてください」と講演し、世界中の参加者が人種を超え「マイカズン！」と言いながら握手やハグをしたというエピソードはいまなお語り継がれています。世界44か国 約15万kmをみずからの足で公式訪問された向笠廣次元RI会長こそ、真の国際親善大使として後世のロータリアンへ、今なお友情や世界平和と言ったメッセージを発信し続け、その意志は我々へ脈々と受け継がれていると確信いたします。

本日は中津市栄誉市民第1号であり、日本人として2人目の国際ロータリー会長という偉大な先輩を持つ中津RC会員の皆様と一緒に、向笠元RI会長を偲び、この喜ばしい日を共に祝いましょう。

●幹事報告〔山本昌豊幹事〕

- ・例会変更 宇佐、宇佐八幡、日出、杵築、別府2クラブ、大分7クラブ、津久見
- ・週報回覧 中津平成、杵築
- ・その他回覧 熊本江南RC50周年記念誌、県立歴史博物館特別展のご案内、会議所ニュース、月刊もみじ
- ・地区大会DVDが届いています。
- ・白杵RC、白杵中央RC合併のお知らせ

●新会員入会式

小倉清司会員（1958年11月18日生まれ）
（旧）小倉商店
職業分類 LPガス販売



●ごあいさつ



〔奥塚正典中津市長〕



〔梶川昭一2720地区ガバナー〕

●謝辞

〔向笠記念公園移転特別委員会・出利葉会員〕



●例会川柳〔福澤会員〕

「人類はひとつ」向笠氏生きる 顕彰碑

●会員卓話

「向笠記念公園移転に際して」

川島真人会員



日本人2人目のRI会長として世界44か国を公式訪問

向笠廣次は1957年に中津RCに入会、1962年に会長。青少年奉仕に高い関心を持ち、中津ドン・ボスコ学園を訪問し、一日父親になって遊園地に連れて行くなど、熱心に奉仕活動に取り組んだ。1967年第370地区ガバナー、1970年RI広報諮問委員、1974年在日本ロータリー財団推進諮問委員、1977年RIアジア地域諮問委員、1978年RI理事と要職を歴任。1982年5月、ボカ・ラートンで開催された国際協議会でRI会長エレクトとして行った「人類は共通の先祖から発生しており、その意味では皆さん方は全員いと同じこと一緒なのです。さあ、立ち上がって周囲のいとこ達と心からの握手をし『マイカズン』と声をかけましょう」という講演は出席者全員の心をつかみ、会場を歓喜の渦に巻き込んだ。1983年6月にダラスで開催されたロータリー国際大会でRI会長に選出され、日本人2人目となった。RI会長となった向笠は、RI本部のある米国イリノイ州エバンストンに居住し、10か月間にわたって世界44か国を公式訪問。インド、スリランカ、アルゼンチンなど歴代会長が訪れたことのない不便な地域にも積極的に足を運び、その旅程は15万キロメートルに及んだ。

「目に見えぬ病を治す」と決意 精神科医となり、功績を残す

向笠は、1911年に久留米市に生まれた。幼少期を軍医

である父親の転勤に伴って小倉、ソウル、水戸、福島で過ごし、1933年4月、九州帝国大学医学部に入学。この間、1930年に父親を亡くし、翌1931年には九州帝国大学医学部の一次試験に合格するも、胸部レントゲンに異常が見つかった2年間の療養を余儀なくされている。大学在学中はヨット部を創設して練習に打ち込んだ。合宿中に急性虫垂炎になった仲間をヨットに寄せ、博多湾を横切って病院へ連れて行ったという武勇伝が残る。その一方で、結核性胸膜炎で1年間休学する苦難も味わった。1938年に九州帝国大学医学部を卒業すると、「目に見えぬ心の病を治す」との志を胸に精神病学教室に入局。翌1939年に安河内五郎氏と共同で「電気痙攣療法」を開発・発表した。これは世界初の電気ショック法であり、当時乏しかった精神分裂病の治療に光明を与える世界的先駆であった。

1943年、別府の朝見病院に勤務。その後、兵役で小倉陸軍病院に勤務中に終戦を迎えた。戦後は朝見病院に復帰したが、物資不足と物価高に苛まれ、中津市殿町の平田医院で週2〜3回アルバイトを強いられた。こうした状況に、大学に戻り学者となるべきか、開業医として生きるべきか迷った向笠だったが、中津の人々の役に立つ医者になろうと意を決し、1946年に平田医院内に精神科を開業。翌1947年、中津市殿町にベッド数20床の向笠精神科医院を創業して、独学で看護婦免許を取得した喜代子夫人と共に昼夜を問わず診療に従事した。また、九州大学や久留米大学で教鞭を取るとともに研究活動も続け、1962年、実弟向笠寛氏と共に草案した嫌酒薬“シアナマイド”を発表。アルコール依存症の治療に有効な薬物として、現在も多くのアルコール依存症患者を救い続けている。

栄光と苦難に満ちた人生

地元中津の人々には、医師としてはもちろん、キノコ博士としても慕われた。毎年秋には、向笠に鑑定してもらおうと採ってきたキノコを持参する人が後を絶たず、また自身も忙しい合間を縫ってはキノコ狩りに出かけたという。

向笠の人生は、栄光の一方、苦難も多かった。RI会長に就任した際も関節リウマチに罹患しており、炎症反応が強まり、骨が破壊されつつあるなか、満身創痍で会長職を遂行。退任後も3年間にわたって世界を飛び回り、活躍を続けた。まさに苦楽吉祥の人生であった。

(文責：永岡侍紹央)

●5月19日(水)例会のご案内

インタラクティブ活動報告
(青少年奉仕委員会)



中津ロータリークラブ週報

国際ロータリー
第2720地区

事務局／〒871-0055 大分県中津市殿町1383-1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-6908 FAX 0979-22-6909

E-mail nakatsu.r.c@feel.ocn.ne.jp URL <http://www.nakatsu-rc.com>

例会／毎週水曜日 12:30〜13:30 ヴィラルーシェ中津 TEL 0979-23-1122

●2020-2021年度 会長／末永克典 幹事／山本昌豊 公共イメージ委員長／永岡侍紹央